

秋らしくなりました

こおろぎや鈴虫などの音色について、千葉工業大学と民間企業が連携した研究成果が今夏報告されたようです。9月14日山陽新聞「滴一滴」に載っていました。

それによると、「虫の音が2種類3種類と増えるにしたがって音楽性が高まり、穏やかさや深みも増してリラックス効果があることがわかった」とのこと。「複数の種類の音が調和しリズムも多様になることで、より好ましい印象になった」ことも添えられていました。箏曲家の宮城道雄も鳴く虫たちを「虫の音にも、まつむし、鈴虫、くつわむし、それぞれ趣があってよい。秋の夜長を楽しませてくれるこれ等の小音楽師達に、私は心からの感謝を捧げたく思う」と随筆でめでた、とも書かれていました。宮城道雄さんは、幼くして盲目になりましたが、箏を習い始め腕をあげ、瀬戸内海ののどかさを感じ取って「春の海」（日本ではお正月の定番の曲として有名で、テレビやスーパーの店内で流れており、誰でも一度は耳にしたことのある曲です。）を作曲した方です。

ありがたいことに、学区は自然に恵まれています。夜空を見上げながら、静かな中で虫の音に耳を傾け、深まる秋を実感してみられてはどうでしょう。

初めて見たくまこもたけ>

8月30日本校へ文教委員を含む県議会議員さんたちが視察に来られたことについては、9月号でお知らせしました。

その時、5年生の一人の児童が、授業を参観されていた議員さんのおひとりに、言ったらしいのです。

「里庄町特産のまこもたけを見たことも食べたこともない。」その一言を受けて、来校されていた県議さんが、里庄町から手に入れられた本物のまこもたけを本校まで届けてくださいました。とてもありがたいことです。早速児童一人ひとりに手渡し、同封されていたレシピも配りました。家庭での調理は、きんぴらが多かったようです。職員室では、余ったまこもたけをマヨネーズで炒め、塩こうしょうで味をつけました。見た目はネギに近かったのですが、食感はエリンギに近い感じでした。おいしかったです。皆さんも是非お買い求めを！



<まこもたけ>



学校から帰っての過ごし方、ついだらだらして困っていませんか？

夏休みを終えて2年生担任が生活リズムを守れているかどうか確認したところ、児童からは「守れていない。」との声が聞かれ、その原因として「つい、だらだらしてしまう。」「ゲームを早くしたいから集中できない。」「おやつをだらだら食べて、時々宿題をしている。」との声が聞かれたようです。

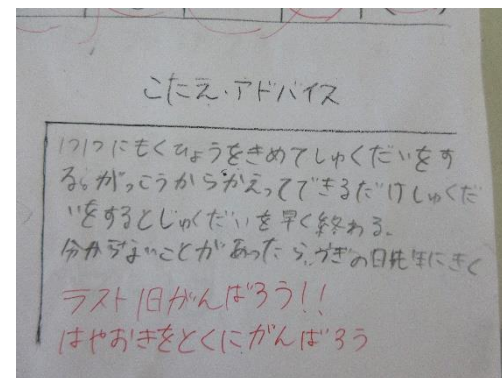
このままの状態ではまずいな、と思った担任は、2年生が慕っている6年生に協力を求めました。

「自分で生活リズムが整えられるよう、6年間で成功したこと・失敗したことなどの経験を活かして、2年生にアドバイスしてほしい。」

6年生が、その期待にしっかりと応えてくれました。「家に帰ってからの時間を守るための作戦」を一緒に考えてくれました。ほけんだより「げんきっこ」10月号でも紹介しています。



嬉しいのは、6年生がミニ先生として、2年生一人ひとりに寄り添いながら、改善計画を立ててくれたことです。その活動をするなかで「自分もできていなかった。」とか「だらだらしてしまう気持ちもわかる。」とか「外に出て気分転換してみよう。」と本気でアドバイスを考えてくれたことです。そして、カレンダーのようなものを作った6年生は1週間点検して2年生に返却しました。7日から次の段階に入ります。がんばれ！6年生！2年生！期待しています。



<2年生スケジュールカード>

3・4年生 ふるさと魅力発見事業（美星町・日本綿布）へ



<日本綿布で>

総合的な学習の時間を活用して、美星町の魅力を知るために、美星天文台と中世夢が原に行きました。当日は、あいにくの雨でしたが、神楽殿でお面の色塗り体験をはじめ、天文台で大型の望遠鏡を見たりおいしいアイスクリームを食べたりしました。日本綿布では、縦糸と横糸とでデニム生地が出来上がる工程を、一生懸命に見たり質問したりしたそうです。

1年生の担任が変わります

1年生担任が産前の休暇に入ります。そのため、新しく非常勤講師を迎えます。どうぞよろしくお願いします。1年生の担任は、教頭が対応します。